

修了評価の方法

事業者名 社会福祉法人可部大文字会

	確認・評価方法	理解度・合格基準	理解不足・不合格時の取扱い
① 各科目	<ul style="list-style-type: none"> ◆出席簿により出欠を確認。 ◆担当講師がレポート等により理解度等を確認すること。 <p style="text-align: center;"><通信課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆担当講師が提出された課題の添削を行い、理解度を確認すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆各科目の全ての実施時間に出席すること。 ◆別表2の各科目の修了時の評価ポイント（「職務の理解」及び「振り返り」の実習においては介護職の働く現場や仕事内容に対する理解度）に達していること。 <p style="text-align: center;"><通信課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆別表2の各科目の修了時の評価ポイントに達していること。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆やむを得ず欠席した場合は補講を受講すること。 ◆理解度が不足していると認められる場合は、指導・助言・補講等による補習を実施した後に、レポート等による再確認を行う。（ただし「9.こころとからだのしくみと生活支援技術」については、科目試験により評価を行うため除く。） <p style="text-align: center;"><通信課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆理解度が不足していると認められる場合は、指導・助言・補講等による補習を実施した後に、課題の再提出による再確認を行う。（ただし「9.こころとからだのしくみと生活支援技術」については、科目試験により評価を行うため除く。）
(9.こころとからだのしくみと生活支援技術) ② 科目試験	<ul style="list-style-type: none"> ◆出席簿により出欠を確認。 ◆「9.こころとからだのしくみと生活支援技術」の講義・演習修了後、科目の時間内に実施。 ◆筆記及び口答試験については、担当講師が添削を行い、介護技術の習得度を評価する。 実技試験については、2時間以上実施し、実技試験評価担当講師が「評価マニュアル」にそって介護技術の習得度を評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「9.こころとからだのしくみと生活支援技術」の講義・演習時間全てに出席していること。 ◆100点満点法により、70点以上を合格とする。（課題の総得点の7割以上） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆やむを得ず欠席した場合は補講を受講すること。 ◆不合格の者に対しては、科目試験が合格になるように指導・助言・補講等による補習を実施した後に、再試験を行う。
③ 修了試験	<ul style="list-style-type: none"> ◆全科目の修了後に実施。 ◆筆記試験をおおむね1時間実施し、担当講師が評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆全科目修了後であること。 ◆100点満点法により、70点以上を合格とする。（課題の総得点の7割以上） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆不合格の者に対しては、修了試験が合格になるように指導・助言・補講等による補習を実施した後に、再試験を行う。
④ 修了認定	<ul style="list-style-type: none"> ◆上記①～③の確認・評価を元に課程編成責任者が総合的に判断して認定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆上記①～③の理解度・合格基準を全て満たしていること。 	<p>_____</p>